

## 第7回 東備西播定住自立圏形成推進協議会 会議録

- 1 日 時 平成23年3月23日(水) 15:00 ~ 16:07
- 2 場 所 赤穂市役所 6階 大会議室
- 3 出席者
  - (1) 委 員 豆田正明(赤穂市長)  
明石元秀(赤穂市副市長)  
松原 宏(赤穂市議会議長)  
家入時治(赤穂市議会総務文教委員長)  
西岡憲康(備前市長)  
森山純一(備前市副市長)  
津島 誠(備前市議会議長)  
金本 享(備前市議会副議長)  
山本 暁(上郡町長)  
高橋道夫(上郡町副町長)  
山本守一(上郡町議会議長)  
工藤 崇(上郡町議会副議長)
  - (2) 幹 事 赤穂市:橘企画振興部長  
備前市:馬場総務部長  
上郡町:岡本企画財政課長
  - (3) 事務局及び各市町担当者  
赤穂市:三谷企画課長、平野企画係長、中村主査  
備前市:藤原企画課長、田原企画課長代理  
上郡町:前田企画財政課参事、宮下企画財政課副課長、木村企画政策係長
  - (4) 説明員 ①教育施設部会:満重書記(赤穂市スポーツ振興担当課長)  
②給食部会 : (上郡町:前田企画財政課参事)  
③観光部会 : 安部部会長(赤穂市観光商工課長)  
④農林商工部会:高田部会長(赤穂市農林水産課長)  
⑤交通部会 : (藤原部会長)  
⑤通信情報部会:沼田部会長(赤穂市情報政策担当課長)  
⑥職員部会 : 尾崎部会長(赤穂市人事課長)  
⑦交流定住部会:(三谷部会長)  
⑧地域医療 : 矢野赤穂市民病院事務局長
- 4 会議の概要
  - (1) 開 会
  - (2) 会長あいさつ
  - (3) 報告事項  
東備西播定住自立圏共生ビジョン(第1回変更)について
  - (4) 協議事項  
第12号議案 東備西播定住自立圏形成推進協議会規約の一部を改正する規約の制定について  
第13号議案 平成23年度東備西播定住自立圏形成推進協議会予算について
  - (5) その他
  - (6) 閉 会

## 5 議事の概要

事務局 定刻になりましたので、ただ今から、第7回東備西播定住自立圏形成推進協議会を開催いたします。

私は、司会進行の赤穂市企画振興部長の橘です。よろしくお願いします。

さて、議事に入ります前に、本日の協議会に傍聴の申し出がございます。

会議の傍聴につきましては、本協議会「会議規程」第2条で原則公開となっておりますが、出席委員の過半数の決定により非公開とすることもできます。

本日の議事内容は、お手元のとおりでありますので、会議の冒頭から傍聴を認めたいと思います。

また、写真等の撮影希望があれば「会長あいさつ」までとし、会議中の撮影、録音はできないこととしたい、と考えておりますが、ご異議ございませんか。

(「異議なし」の声)

異議なしというお言葉をいただきましたので、傍聴を認めるということで、傍聴の方にお入りいただきます。

しばらくお待ちください。

(傍聴者、報道入室)

どうもお待たせいたしました。

報道の方をお願いいたします。会議中の写真撮影等はご遠慮いただきますので、ご希望があれば、ただ今から会長あいさつまでの間、写真等の撮影を認めたいと思います。

必要な方は、この時間をお願いいたします。

それでは、開会にあたりまして、会長であります豆田赤穂市長よりごあいさつを申し上げます。

豆田会長 協議会に先立ちまして、この度の東北関東大震災の被災者の方々に深く哀悼の意を捧げるものであります。未だ被害の全容が明らかではありませんが、その被害は甚大で復興には大変なご苦労があると存じます。微力ではありますが、赤穂市としてもその復興のお手伝いをしてまいる所存でありますし、備前市さん、上郡町さんも同様であると思います。

さて本日は、年度末の大変お忙しい時期にもかかわらず、第7回東備西播定住自立圏形成推進協議会にご出席を賜り、誠にありがとうございます。

昨年10月以来の開催となり、この間、上郡町議会の役員改選によりまして、本日、2名の新たな委員にご出席をいただいております。新委員におかれましては、今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

東備西播定住自立圏構想につきましては、皆さんご承知のとおり、昨年3月に策定されました共生ビジョンに基づき、平成22年度事業も順調に実施されているところでございます。

圏域全体の魅力の向上と、活力ある地域を作るため、委員の皆様には、それぞれのお立場でご尽力をいただいているところでございますが、今後も圏域事業への更なるご理解とご協力をいただきたいと思います。

本日は、共生ビジョンの変更についての報告のほか、規約の改正及び共生ビジョンに基づく平成23年度予算についてご協議をいただくことといたしております。

委員各位の忌憚のないご意見をいただきますようお願い申し上げまして、簡単ではありますが、開会のあいさつとさせていただきます。

どうぞよろしくお願いいたします。

事務局 ありがとうございました。報道関係の方、以上で撮影の時間を終了いたします。会長の挨拶にもありまして、昨年10月に上郡町議会の役員改選が行わ

れ、協議会委員の変更がございますので、ご紹介させていただきます。

上郡町議会から山本議長、工藤副議長が新たに、委員として出席していただいております。新委員のお二方から一言ずつ自己紹介をお願いしたいと存じます。

(自己紹介)

なお、お手元に名簿を配布しておりますので、ご覧ください。

それでは会長、議事進行をお願いいたします。

豆田会長                    それでは、3の報告事項に入ります。  
東備西播定住自立圏共生ビジョン 第1回変更について、であります。  
事務局、説明をしてください。

事務局                    (説明)

豆田会長                    事務局の説明は終わりました。  
報告事項について何か質問等ありますか。

工藤委員                    一つは上郡町の学校給食の問題ですが、上郡町では23年度に給食センターの実  
施設設計の予算を計上しています。是非このビジョンのなかに事業採択できるような  
文章の作成をお願いできたらと思います。具体的な言葉についてまだ詰めていませ  
んが、可能でしょうか。

事務局                    事務局では上郡町から平成23年度当初予算に給食施設の設計委託経費を計上  
し、そこで実施に係る事業費が固まるということを知っています。内容等につきま  
しては、この共生ビジョンでいかに連携した取組みができるかということ踏まえ  
て、今後ここに掲載する方向で協議を進めていきたいと考えています。

工藤委員                    わかりました。もう一つよろしいでしょうか。  
医療連携のことですが、以前からご意見が出ていましたが、赤穂市民病院での入  
院時の特別室などの差額等と産科の受診制限についてです。備前市民、上郡町民も  
赤穂市民と同じようにしていただきたいと思いますが、どうでしょうか。勝手では  
ありませんが、実質中心市としての赤穂市の腹の大きなところを見せていただきた  
いと、上郡町議会、上郡町民も願っています。私どもの命の絆である赤穂市民病院の  
料金を同一にするということで、気持ち的にも2市1町住民の気持ちが繋がるので  
はと思います。赤穂市民病院は「恕」、思いやりの心という全国的にも有名な救急  
または医療体制の理念をもっておられるので、定住自立圏として是非とも願いま  
いたいと思いますが、どうでしょうか。

豆田会長                    理想としては私もそうあって欲しいと考えていますが、赤穂市民病院も赤字が続  
き市から財源を持ち出している状況のなかで、現時点でそれを別途行うとなると非  
常に厳しいところがあります。将来の課題とさせていただきます。

工藤委員                    赤穂市の財政を圧迫する気はありません。ただ、理屈を言わせていただくと赤穂  
市民病院に上郡町民がたくさん行くということは、言い方は悪いですが、賑わい  
になっていろいろなお金が落ち、病院が賑わっているということは市の賑わいを2市  
1町が支援しているのご理解いただいて、よろしくご検討いただきたい。  
それから、この近くでは赤穂市民病院しかお産ができないのに産科医が少ないか  
ら受け入れられないという表記があります。それも少なくとも上郡町と備前市の住  
民については赤穂市民と同一の取り扱いにさせていただけないでしょうか。

豆田会長 産婦人科では医師が 3 名いないと全部を受け入れるというのはなかなか難しいということもあり、研修医が育つまでの間、人数的に絞らせていただくという意味で市外の方のお産を制限しています。ただ直接病院に来られた方に対しては拒否はしていないようです。もう少し待っていただければ制限をなくす方向と聞いていますので、もうしばらく時間をいただければと思います。

工藤委員 定住自立圏構想事業は医療と交通インフラの整備による 2 市 1 町の交流・結び付きが一番の重要ポイントだと思いますので、会長や副会長にご理解をいただくようお願いしておきます。

西岡副会長 備前市は市外料金が無いので、備前の病院に是非来てください。

工藤副議長 交通インフラの整備で、赤穂市と備前市、上郡町と赤穂市の二つのルート案を見て、是非備前市と上郡町のルートも確保していただけたら必ず病院が黒字になるとは言えませんが、備前市さんの病院は駅から近いということもあって上郡町民もたくさん利用されていますので、是非お願いしたいと思いますが。

西岡副会長 山陽本線も赤穂線も J R の陳情は毎年しています。昼間は 1 時間に 1 本というところを 30 分に 1 本にということをお願いしていますが、全てができるわけではありませんので要所、要所をそのようにしてもらえるように言っています。その際、吉永駅の乗降が 1 日 600 人にちょっと足りていないので、600 人を超えるようになったら増やすというような答えをされていました。だから、もう少し上郡町から吉永病院に来ていただけたら、増えるかもしれません。

豆田会長 事務局、都市間バスはどうなっていますか。

事務局 現在のところ、上郡駅からジャスコ・赤穂市民病院行き、吉永病院から三石経由の赤穂市民病院・ジャスコという 2 つのルートを事務局案として作成しています。ご意見にありました上郡駅から吉永駅間は、J R 山陽本線が通っております関係から上郡～三石～赤穂という L 字型も検討しましたが、日生ルート同様 J R 乗降客を減らさないように、現在事務局の素案を作るためバス会社と協議をしているところであります。

家入委員 今回の資料だけではどのように質問をしたらいいのかわからないので、もう少し詳しく事業の説明をしていただきたいと思います。

事務局 (共生ビジョン掲載事業の詳細について説明)

豆田会長 それでは、改めてご質問等があればお受けいたしたいと思います。

家入委員 22 ページの職員集合研修等ということで研修内容を拡大し、予算が大きな額ではありませんが約 3 倍くらいに増えています。その研修内容について詳しく教えてください。

それから、まだ時期は早いですが、21 ページに定住相談会の開催があります。今回の東北地方の地震や津波で被災された方は住む所をなくしていますので、こういう相談会を東京ではなくて東北ですることも考えてはどうかと思いますがいか

がでしょうか。

職員部会

職員研修の内容についてご説明させていただきます。22年度は集合研修という形でハーモニーホールに2市1町の職員約70名が集まり、総務省から講師をお招きして定住自立圏の内容や関係するさまざまなメニューについて講演をしていただきました。

23年度は2市1町の職員がグループを組み、他の定住自立圏へ視察に行ってもらい、その結果を報告してもらうなど、新たな事業展開に繋げていければという内容を考えています。

予算は主に旅費で、各市町2名ずつということで6名分36万円ということで計上しています。なお、文言の中に「等」と入れたのは、集合研修はあくまで各市町の職員にお集まりいただき一同に介して実施する研修ですが、今回のように圏外に出て行き研修をしていくということで「等」という言葉を入れさせていただきました。

交流定住部会

東北地方での定住相談会の開催についてですが、現在の被災地の状況を見ると定住説明会を開催するには時期尚早ではないかと思えます。ただ、今後の状況により開催することが可能と判断すれば、仙台市あたりが一番適地かとも思いますが、いざれにしましても今後の被災地の状況を見て考えていきたいと思えます。

西岡副会長

今の説明会の件ですが、私も非常にいいことだと思えます。仮設住宅を作り始めていますが、被災者の方は、「また地震が来たら」ということにもなりますし、意を決して地震のない地域にということもあるかもしれませんし、気持ちが大きく動くこともあると思えます。普通ならばこんな遠いところには来ませんが、この地域は津波が来ないということは大きな魅力になると思えます。高さ10メートル以上の津波というのは瀬戸内海では考えられない。時期をみて3市町合同で適当な地で開催するというのは意味のある事業だと思えます。

松原委員

今、備前市長が言われたことはもっとものことだと思えます。この地震で限界集落という部分がほとんど壊滅状態です。2市1町に限界集落全部が来てもらえるような形が取れば、気候もいいし、住んでいただけるのではないかと思えます。そういったことをアピールしながら思い切った政策をとって欲しいと思えます。

豆田会長

相談会については、今後の状況をみながら事務局で判断してやってもらいたいと思えます。

他にありませんか。

ないようですので、次の4の協議事項に入ります。

第12号議案、東備西播定住自立圏形成推進協議会規約の一部を改正する規約の制定についてであります。

事務局、説明をしてください。

事務局

(説明)

豆田会長

事務局の説明は終わりました。

規約の改正について、何か質問等ありますか。

工藤委員

この改正には賛成です。ただ、これまでも思っていたことですが、豆田赤穂市長が会長をやられるのであれば、もう一度総務省にかけあって備前市さえよければ中

心市を赤穂市にするというようなことをしないと分かりにくいと思います。

人口と昼夜間人口比率で備前市は1を超える素晴らしいまちで、赤穂市ももちろん全国的に有名であり、圏域の中心的な市として両市が並んでいます。

ところが、都道府県の昼夜間人口を総務省の統計資料でみると、大阪府と東京都だけが1以上で、兵庫県は1以下、滋賀県も奈良県も岡山県も1以下です。経済交流、生活圏域の中で一つが上がれば後はどんなに素晴らしい県でも少し下がる。それは数字のマジックです。備前市さんも岡山県の素晴らしい中心市の一つであり、赤穂市も兵庫県の中心的な市です。そういうところは数字では比べるわけにはいかないと思います。

だから、もう一度総務省の地域自立支援課にお願いして、備前市さえよければ中心市を赤穂市にした方がこの定住自立圏構想も力を発揮できると思います。何を今更、備前市さんが中心市で頑張ってきたのと言われるのであれば、私もこの意見は辞めますが何とかならないものでしょうか。両方とも素晴らしいまちだから言っています。

豆田会長           その問題は当初から言われておりまして、西岡市長ともいろいろと話をしてきたところですよ。

西岡副会長        言われることはよく分かります。私も、最初は中心市になるとは思っていませんでした。また、会長になる気もありませんでした。それを申し上げて、変形の形ではありますが豆田市長に会長になってもらい、国からの交付金は全額を圏域のためにプールして使おうという形をとっています。

今のご意見に反対ということではないのですが、せっかく総務省とそういう形でやってきて、備前市の市民もある程度慣れてきたというか、四国の方では中心市が二つというところもあって、二つの中心市はあり得ると思います。今の時点では私の一存で決められることではありませんので、市議会なりいろいろな人と相談しながら決めていきたいと思っています。

しかし事実上、中心市は赤穂市なんですよ。買い物も赤穂に来ますし、病院も赤穂に来ます。その逆というのはあまりないです。上郡の方が少し吉永病院に来られたりしますが、赤穂の皆さんが備前市に行くことはあまり聞きません。

そういう意味で、この圏域の実態は中心市が赤穂だということは誰がみても分かると思います。

豆田会長           他にご質問はありませんか。

ないようですので、東備西播定住自立圏形成推進協議会規約の一部を改正する規約につきましては、原案のとおり可決することでご異議ございませんか。

(異議なし)

それでは、「東備西播定住自立圏形成推進協議会規約の一部を改正する規約」につきましては、可決いたします。

続きまして、第13号議案、平成23年度東備西播定住自立圏形成推進協議会予算について、であります。

事務局、説明をしてください。

事務局           (説明)

豆田会長           事務局の説明は終わりました。

予算について、何か質問等ありますか。

家入委員           それぞれの内容については分かりました。本年度の歳入合計が3880万ということですが、このうち総務省からの支援額としては年間どれくらいなのか、お聞きします。

事務局           この定住自立圏構想につきましては、国からの財政支援ということで中心市に約4千万円、その他の市町にそれぞれ1千万円の最大6千万円程度の特別交付税が措置されます。

ただ、23年度予算として備前市さんに負担いただく3060万円につきましては、特別交付税の対象になる分として約2300万円の一般財源と、20年度に国からいただいた臨時交付金約4000万の残額、これは23年度を最終年度として使い切ることになっていますので、その残額を全て充当することとしています。

豆田会長           各市の残りの1000万円は、各市町が使うということか。

事務局           共生ビジョンに謳っていないければ特交の対象になりません。したがって、今後、市や町でこのビジョンで謳うべき事業があり、それを共生ビジョンに載せていけば特交の対象になるという考え方です。

豆田会長           赤穂の文化会館整備は、特交措置の対象になるということか。

事務局           そうです。赤穂市が行う文化会館整備事業につきましては、地域活性化事業債を除く一般財源について特交措置が受けられるという理解をしています。

家入委員           もっと共生ビジョンでいろいろな事業をスピードアップしてやれば、お金を使える状況なのかということを確認したいのですが。

事務局           もちろん共生ビジョンによる連携事業を拡大していこうと考えています。22年度も福祉や環境に関することについて3市町の担当職員に集ってもらい検討しましたが、まだ具体化できないということでありました。今後も、共生ビジョンの充実を図っていきたいと考えております。

家入委員           市民、町民は、定住自立圏構想に期待をしています。お金がないから事業が進まないというのであれば話は分かるが、もっと積極的に事業を取り入れていく、そして早く進めていくことが生きたお金の使い方だと思いますので、何故そこが滞っているのかをお聞きしたいと思います。

事務局           3市町がまとまって実施できる事業で、かつ特交の対象になる事業を考えています。先程、病院の差額という話も出ましたが、総務省としては減収補てんに対する特交措置は馴染まないという回答でありました。このため、3市町が連携して行う圏域事業で、かつ特交の対象になる事業を考えなければならないということで苦慮しています。

西岡副会長       1年ほど前に環境部会が抜けているということで環境部会を提案したつもりですが、当然入っていると思っていたら入っていません。

今の東北地方ほどではありませんが、6年ほど前、台風と高波が重なって備前も日生も床上浸水があり、ゴミを大きな広場に持って行き処理していました。その広

場の状況が今回の地震のテレビと同じような状況でした。

それをそのままゴミ処理場に持って行っても処理ができない。処理をするための機械を借りるだけでも1ヶ月500万円ほどかかるから岡山県でもその機械は4、5台しかない。このことを考えると環境部会というのは是非必要で、今後、津波や高潮による被害のことを考えれば、赤穂市さんは高い防波堤を作っているから6年前も私どもより被害が少なかったと思いますが、日生は観光面からあまり防波堤を高くできない。だから、いつ高潮による災害がくるかもしれない。幸い去年から赤穂にできました住友大阪セメントさんをお願いして何とか受け入れてもらえるように働きかけていますが、災害はいつ来るかわからないので、そこはお互い様ということで、そういったゴミを受け入れて処理することが、この定住自立圏の不可欠な事業として検討していただきたいと思います。そうすれば事業費も十分使えるのではないかと思います。

豆田会長 2市1町の環境部会がなかなか詰まりにくいということですが、先ほど西岡副会長が言われたように広い視点で検討していくのはどうでしょうか。

事務局 先程もご説明させていただきましたとおり、22年度も環境と福祉については関係職員に集ってもらい検討いたしました。しかし、ビジョンに掲載するための事業がまだ煮つまっていない状況です。  
ただ、何をするかによって部会メンバーが変わってきますので、もう少し視野を広げた検討をしていけたらと思っています。

西岡副会長 やはりゴミだと思います。手っとり早いし、かつ重要です。それに赤穂市内に儲けが入るし、それを活用しない手はない。  
今備前市は三重県まで運んでいて、それだけでも経費がすごいので、赤穂市ならすぐに持っていけます。

工藤委員 先程福祉も検討したとのことでしたが、私たち上郡町は財政的に体力がありませんし、特交で措置できるなら福祉施設等の交流など、是非部会を立ち上げて検討してもらいたいと思います。

豆田会長 ここに書いていないから、していないというわけではありませんが、こういう部会もあるということで、目に見える形にしないと今のような疑問も出てくるので、事務局には是非とも今後検討していただきたい。

他にありませんか。

ないようですので、平成23年度東備西播定住自立圏形成推進協議会予算につきましては、原案のとおり可決することで、ご異議ございませんか。

(異議なし)

それでは、「平成23年度東備西播定住自立圏形成推進協議会予算」につきましては、可決いたします。

続きまして、5のその他ですが、事務局から何かありますか。

事務局 まず、本日ご決定いただきました予算と共生ビジョンに基づき、各部会において23年度もさまざまな事業を実施してまいりますので、委員の皆様におかれましても、時間が許せば、ぜひご参加いただきますようお願いいたします。

次に、次回協議会の日程であります。新たな取り組みの検討等今後の状況により、改めてお知らせさせていただきます。

なお、本年度の決算報告につきましては、本来決算ができしだい協議会を開催し、監査報告等を行うべきであります。他の案件がない場合は、まず書面で各委員に報告し、次回の協議会開催時に報告等させていただく場合もあるかと思っておりますので、ご了解いただきたいと思います。

豆田会長

次回開催につきましては、改めて通知させていただきたいと思います。また、各種事業への参加についても、皆さん、よろしくお願ひします。

その他にありませんか。

ないようですので、本日の会議はこれで終了いたします。

ご苦労さまでした。

了

(16時07分)